

## 勇壮な流鏝馬を披露

10月23日午後2時、井草八幡宮の参道では、およそ1,200人が見守る中、勇壮な流鏝馬が行われました。この行事は、昭和27年から約5年ごとに行われており、参道に設けられた3つの的が馬上より次々と射抜かれる様子に、観衆は大きな歓声を上げました。

井草八幡宮（善福寺1-33-1）は、青梅街道と早稲田通りの交差点に面しており、高さ9mの朱塗りの大灯籠が設置された北参道は、西の多摩方面から来ると、23区の入口としての目印にもなっています。その井草八幡宮は、源頼朝が奥州征伐に向かう際に、戦勝祈願を行ったとされています。今は枯れてしまいましたが、その際頼朝が、本殿前に自ら雌雄の松を植えたといわれています。

源頼朝は、鎌倉時代に武芸の上達を目指し、平安時代に行われていた流鏝馬を復興し、鎌倉の鶴岡八幡宮に奉納しました。その流鏝馬は、源氏の子孫である武田家と小笠原家に相伝され、現在に至っています。

井草八幡宮で、流鏝馬を行うようになったのは、昭和27年からです。それ以降、雨で中止になることもありましたが、約5年ごとに開催されてきました。今年は、前回から4年目での開催となります。井草八幡宮の本祭りとも言える「神幸祭」と重なるために、今年は1年前倒しとなりました。なお、神幸祭は3年ごとに行われるもので、騎馬武者姿の頼朝公や大太鼓、山車などが渡御するものです。

23日午後2時、長さ約200mほどの井草八幡宮東参道では、50cm四方の的が三か所にわたり設けられました。伝統の狩装束をまとった射手3人が馬に跨り、砂煙がたつほどの速さで馬場を駆けながら、その馬上から巧みに弓を放ちました。矢が命中し、見事的が割れると、参道を埋め尽くしたおよそ1,200人の観衆からは、大きな拍手と歓声が起こりました。この流鏝馬は、国の安泰と地域住民の平安を願って行われているもので、井草八幡宮の宮崎宮司は、「多くの氏子さんの前で、無事に流鏝馬神事を斎行できて良かった」と笑顔で話していました。



### 【問い合わせ先】

井草八幡宮社務所： 電話03-3399-8133